

E-mail:eden-5g-pr@kyodo-pr.co.jp FAX:0120-653-545
 5Gで文化財 国宝『聖徳太子絵伝』ARでたどる聖徳太子の生涯 広報事務局行(担当:中村、三井)

5Gで文化財 国宝『聖徳太子絵伝』ARでたどる聖徳太子の生涯
 2020年9月29日(火)～10月25日(日) 東京国立博物館 法隆寺宝物館
 【広報作品画像データ申請書】

本企画の広報を目的として本申請書にてご申請いただいた記事・番組に限り、この広報用画像の使用が可能です。会期中であっても別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。ご使用可能期間は本企画会期終了までとなります。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、本企画終了後、データは速やかに破棄・削除してください。必要事項をご記入の上、E-mailもしくはFAXでお申し込みください。












<画像使用全般に関する注意>

- 企画名、会期、会場名のほか、画像タイトル、制作年代や所蔵元、写真クレジットを必ず記載してください。
- 作品画像は全図で使用してください。文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・変更・部分での使用はできません。雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合は広報事務局までお問い合わせください。
- 赤枠で囲った画像は企画の趣旨上、2枚を組み合わせてご使用をお願いします。
- WEBにてご掲載の場合には、コピーガード(※右クリック不可)を施してください。コピーガード対応ができない場合には、72dpi以下もしくは400×400pixel以下の解像度にてしてください。
- 概要など確認のため、ガラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを広報事務局へ1部ご送付願います。

希望	NO.	画像タイトル	【記載必須】制作年代、所蔵元・写真クレジット
	1	浮遊する太子(11歳、研究員が監修し作画したイラスト)	5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより
	2	5G仕組み概要	5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより(合成)
	3	魔法のグラス	5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより(合成)
	4	魔法のルーベ1	5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより(合成)
	5・6	国宝「聖徳太子絵伝」(太子27歳、部分) 黒駒で空を飛んで富士山へ(27歳、研究員が監修し作画したイラスト)	平安時代・延久元年(1069) 全10面のうち第3面 東京国立博物館蔵 5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより
	7	魔法のルーベ2	国宝「聖徳太子絵伝」(部分) 東京国立博物館蔵(合成)
	8	魔法のグラス使用イメージ1	
	9	魔法のグラス使用イメージ2	
	10	魔法のルーベ使用イメージ1	
	11	魔法のルーベ使用イメージ2	
	12・13	国宝「聖徳太子絵伝」(太子1歳、部分) 太子誕生(1歳、研究員が監修し作画したイラスト)	平安時代・延久元年(1069) 全10面のうち第1面 東京国立博物館蔵 5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより
	14・15	国宝「聖徳太子絵伝」(太子11歳、部分) 浮遊する太子(11歳、研究員が監修し作画したイラスト)	平安時代・延久元年(1069) 全10面のうち第1面 東京国立博物館蔵 5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより
	16・17	国宝「聖徳太子絵伝」(太子27歳、部分) 黒駒で空を飛んで富士山へ(27歳、研究員が監修し作画したイラスト)	平安時代・延久元年(1069) 全10面のうち第3面 東京国立博物館蔵 5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより
	18・19	国宝「聖徳太子絵伝」(薨後22年、部分) 太子の王子たちの昇天(薨後22年、研究員が監修し作画したイラスト)	平安時代・延久元年(1069) 全10面のうち第7面 東京国立博物館蔵 5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより
	20・21	国宝「聖徳太子絵伝」(太子37歳、部分) 太子の魂、青龍車で中国・衡山へ(37歳、研究員が監修し作画したイラスト)	平安時代・延久元年(1069) 全10面のうち第10面 東京国立博物館蔵 5Gで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」アニメーションより



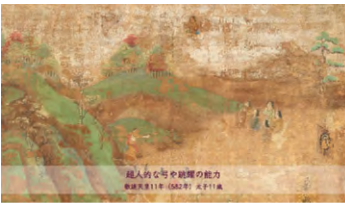


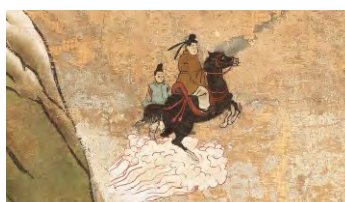



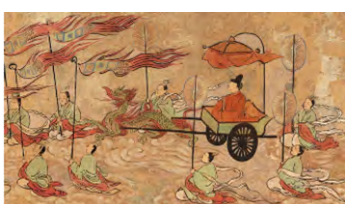
ご住所	〒		
社名/媒体名			
ご所属/ご担当者名	ご所属	ご担当者名	
TEL/FAX	TEL	FAX	
E-mail			
掲載号/発売予定日	月号(月 日号) / 月	日発売予定 (発行部数 部)	<input type="checkbox"/> WEBへの転載あり

リリース内使用画像

<p>1</p> 	<p>2</p> 	<p>3</p> 
<p>浮遊する太子(11歳・研究員が監修し作画したイラスト)</p>	<p>5G仕組み概要</p>	<p>魔法のグラス</p>
<p>4</p> 	<p>5</p> 	<p>6</p> 
<p>魔法のルーペ1</p>	<p>国宝『聖徳太子絵伝』(太子27歳、部分)</p>	<p>黒駒で空を飛んで富士山へ(27歳、研究員が監修し作画したイラスト)</p>
<p>7</p> 	<p>8</p> 	<p>9</p> 
<p>魔法のルーペ2</p>	<p>魔法のグラス使用イメージ1</p>	<p>魔法のグラス使用イメージ2</p>
<p>10</p> 	<p>11</p> 	
<p>魔法のルーペ使用イメージ1</p>	<p>魔法のルーペ使用イメージ2</p>	

コンテンツ内解説画像および国宝「聖徳太子絵伝」場面紹介・鑑賞ガイド

◇国宝「聖徳太子絵伝」の場面と鑑賞ポイントをご案内します。下記、一覧のタイトル・場面紹介・鑑賞ガイドは記事執筆のご参考にしてください。

面	太子年齢	国宝「聖徳太子絵伝」(部分)	研究員が監修し作画したイラスト	タイトル	場面紹介	鑑賞ガイド
1面	1歳	12 	13 	厩(うまや)の前で誕生 敏達天皇元年(572年) 太子1歳	身ごもってから12か月後の1月1日、穴穂部間人皇女(あなほべのはしひとのひめみこ)は厩(うまや)の前で太子を突然出産しました。生まれたての太子を抱いて女官(じよかん)が宮殿に入ったとき、西の方からオレンジ色の光が差し込みました。厩の前で誕生したこの逸話から、太子は厩戸皇子(うまやどのみこ)とも呼ばれます。	誕生から間もない太子を抱いた妃を、5人の女官たちが囲んでいます。左の厩からは、その様子を眺めるかのように馬が顔をのぞかせています。
1面	11歳	14 	15 	超人的な弓や跳躍の能力 敏達天皇11年(582年) 太子11歳	遊び友達とのなかで、太子は最も力持ちで弓の技にすぐれた子どもでした。さらに、太子は雲のように空中に浮かび、稲光のように駆けめぐることでもできました。	赤い衣の片袖を脱いで弓を構えて、右の的(まと)を射ようとする太子。子どもたちはその様子を眺めています。空を見上げる子どもの視線の先には、太子が両腕を広げて空中に浮かぶさまが描かれています。
3面	27歳	16 	17 	黒駒(くろこま)で空を飛んで富士山へ 推古天皇6年(598年) 太子27歳	太子は、甲斐の国から献上された黒駒に乗り、空中に駆け上がり東に向かいました。黒駒の飼育係である調子麻呂(ちようしまろ)だけが付き添いました。3日後に帰ってきた太子は、「富士山頂に到達して、信濃まで飛び、越前・越中・越後をめぐって帰ってきた」と語りました。	富士山上空の右側に、黒駒に乗って飛び、東の国に進もうとする太子が描かれています。馬の尻尾の後ろに、調子麻呂(ちようしまろ)が描かれていたと考えられます。現在では足の部分のみ残っています。
7面	薨後22年	18 	19 	太子の王子たちの昇天 皇極天皇2年(643年)	蘇我入鹿(そがのいるか)の軍勢の襲撃から、生駒山に逃れた太子の王子たちは、山背大兄王(やましろのおおえのおう)に率いられて斑鳩寺(法隆寺)の塔内に入り、浄土に生まれ変われることを誓いました。すると天は光り、仙人などが現れて飛び去り、王子たちは絶命しました。人々は、彼らの魂は天界に迎えられたと語りました。	手前の南大門の奥にある中門には、絵具がはく落していますが、金剛力士像が描かれています。さらに奥の右に金堂が、左に五重塔があります。塔にかかる霞の左手に、昇天する7人の王子たちの姿が見えます。
10面	37歳	20 	21 	太子の魂、青龍車で中国・衡山(こうざん)へ 推古16年(608年) 太子37歳	二度目の隋(すい)への派遣から帰国した小野妹子は、現地の僧侶から聞いたことを太子に報告しました。前に僧侶が妹子に与えた経典は、太子が前世(ぜんせい)で持っていたものと異なったため、太子自身が籠に引かせた青龍車に乗り、東の空から訪れ、経典を探当てた」と、妹子は隋の国で聞きました。太子は報告を聞き、黙ってはほほ笑みました。	青龍車に乗る太子とおつぎたちが、衡山に向けて海の上を飛行しています。車を引く龍たちは口を大きく開け、雲に乗り疾走しています。青龍車の後輪の近くに、笏(しゃく)を持つ太子の姿が見えます。

●画像12、14、16、18、20は国宝「聖徳太子絵伝」になります。「研究員が監修し作画したイラスト」(画像13・15・17・19・21)と判別するために、本資料では画像にタイトルキャプションを入れております。タイトルキャプションを入れていない画像をご希望の方は、広報事務局までお問い合わせください。